

今週（7月22日から7月26日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コール市場は、引き続き資金調達ニーズの強い展開となった。
無担保コールO/N物取引では、22日(月)から25日(木)までは通常の取引に加え、試し取りと思われる調達が複数散見された。市場残高が少ない中、試し取りにより高いレートでの出会いも見られたため、加重平均レートは連日0.08%台での推移となった。26日(金)は、週末3日積みとなった事により試し取りは見られず、0.07%台で落ち着いて推移した。
ターム物に関しては、1W～3M物で出会いが散見された。

日銀当座預金残高は、週初545兆円台前半で始まり、24日(水)に国債買入、25日(木)に財政資金の払いなどを受け、緩やかな増加傾向となり、26日(金)には548兆円程度での着地見込みとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、0.02～0.08%近辺で推移した。
23日(火)までのGC T/N物は、0.06～0.08%近辺で安定的に推移した。24日(水)はオファーがやや薄くなった事により、0.04～0.05%での出会いが中心となるなか、一時0.02%程度まで低下する場面も見られた。25日(木)は前日の水準を引き継ぎ、0.04%近辺での推移となったが、引け間際に0.08%近辺まで上昇した。26日(金)は、T+1に短国の発行を控えていた事から、前場の時点では0.07～0.08%近辺での出会いが中心となるなど、小甘く推移した。
SC取引の個別銘柄では、2Y460～462回、5Y160～170回、10Y355～375回、20Y180～189回、30Y65～83回、40Y10～17回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全ゾーンでレートが上昇する展開となった。
26日に行われた3M物入札は、前回債からレートが上昇したものの、事前予想よりも強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP 発行市場は小売、石油、その他金融等の業態で大型発行が見られた。
市場発行残高は、24兆円台後半で推移している。
発行レートは、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきがみられた。

また、26日にはCP等買入オペが事前予定通り3,000億円でオファーされた。結果は、全取レート0.226%、平均落札レート0.246%と、前回(按分0.191%、平均0.200%)比で最低落札レート、平均落札レートともに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
7/22（月）	39,599.00	1.050	157.45	0.083	0.081	5,452,900
7/23（火）	39,594.39	1.060	156.72	0.080	0.062	5,453,400
7/24（水）	39,154.85	1.070	155.85	0.080	0.045	5,461,600
7/25（木）	37,869.51	1.065	153.25	0.081	0.033	5,469,100
7/26（金）	37,667.41	1.055	153.99	0.078	0.078	5,479,900

来週（7月29日から8月2日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/29 (月)					
7/30 (火)	日銀金融政策決定会合(1日目14:00～) 6月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 6月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	交付税借入 12,500億円 8/8借入			米FOMC(1日目) 5月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 7月の米CB消費者信頼感指数 4-6月期のユーロ圏GDP1次速報
7/31 (水)	日銀金融政策決定会合(2日目9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 6月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 6月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 6月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 7月の消費動向調査(内閣府 14:00)				米FOMC(2日目) 7月のシカゴPM景況感指数 7月のユーロ圏消費者物価指数速報値
8/1 (木)					英中銀MPC 7月のISM製造業景況指数 6月の米建設支出
8/2 (金)	7月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	TB3M 52,000億円 8/5発行			7月の米雇用統計 6月の米製造業新規受注・出荷・在庫

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/29 (月)	200	6,300	6,500	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 500 ▲ 100 18,400		17,800	24,300	TB3M発行▲52,000償還58,000
7/30 (火)	▲ 500	500	0				0	0	
7/31 (水)	▲ 600	500	▲ 100	CP買入		3,000	3,000	2,900	交付税借入▲13,000期日13,000
8/1 (木)	▲ 400	▲ 27,000	▲ 27,400				0	▲ 27,400	2Y発行▲26,000償還14,200
8/2 (金)	100	▲ 59,000	▲ 58,900				0	▲ 58,900	年金保険料揚げ、法人税・消費税揚げ 申告所得税揚げ
週 間 合 計	▲ 1,200	▲ 78,700	▲ 79,900	—	17,800	3,000	20,800	▲ 59,100	

7/29は日銀予想、7/30以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、政策決定会合を意識した相場が見込まれ、31日(水)の午前中は運用を見送る先も予想される。債券レボGC T/N物のレート水準は、31日(水)の政策決定会合の結果が注目されるものの、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、0.00～0.10%程度の水準で推移することが予想される。短国市場は、8月2日(金)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場は、29日(月)に月末発行を控えており、発行がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、国内では30日(火)から31日(水)に日銀金融政策決定会合、経済・物価情勢の展望、海外では、30日(火)に4-6月期のユーロ圏GDP1次速報、30日(火)から31日(水)に米FOMC、31日(水)に7月のユーロ圏消費者物価指数速報値、8月1日(木)に英中銀MPC、7月のISM製造業景況指数、2日(金)に7月の米雇用統計などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入